

鹿児島の動物45

口永良部島の陸生ヘビ

動物担当 池 俊人

鹿児島県立博物館では、口永良部島の調査に取り組みました。その結果、植物・動物・昆虫・地質の各分野で様々な成果が得られ、その一部は既に研究報告や企画展「口永良部島の自然」などで紹介したところです。今回は、口永良部島の陸生ヘビについて、調査の合間に私たちが観察したものと、その後寄せられた重要な情報を紹介します。

(1) 既知の陸生ヘビ 2種

口永良部島にはアオダイショウとシマヘビの2種が生息していることが、これまでの文献などで記載されています。隣の屋久島には7種の陸生ヘビがいることと比べると、かなり少ないと言えます。この2種は



岩屋泊で観察したアオダイショウ

口永良部島には比較的多くいて、私たちが滞在中にも何回か観察することができました。



湯向で観察したシマヘビ（黒化型）

(2) シロマダラを目撃情報

2017年11月に来館者の方から、島内でアオダイショウでもシマヘビでもないヘビを目撃したという情報が寄せられました。爬虫類図鑑をお見せすると、色彩や斑紋などがシロマ

ダラの特徴に近いとお話でした。

年が明けて1月に、今度は屋久島町役場の方から、口永良部島の番屋ヶ峰の屋外にあるボックス内にシロマダラがいるところを撮影したとの連絡をいただきました。写真を見ると、斑紋などから確かにシロマダラだと確認できます。シロマダラは森林にすむ小型のヘビなので、県本土でも滅多に見かけることはありません。そのため、口永良部島でもこれまで発見されなかったのかもしれない。

博物館がこれからすべきことは、口永良部島でシロマダラを採集して標本にし、きちんと報告書を作成することです。そのために、地元の方々に協力をお願いしているところです。今後、口永良部島のシロマダラについて島民の方からの情報が寄せられることを、期待しているところです。



2017年11月4日に番屋ヶ峰で撮影されたシロマダラ（撮影：内田大信氏）

今回の博物館の調査により、他の分野でも、これまで口永良部島から記録がなかった生物を、多数確認することができました。このことは、交通アクセスが不便なために、口永良部島の生物についてこれまで十分な調査がされていなかったことを意味していると考えられます。口永良部島に限らず、県内各地の方々のご協力をいただきながら、これからも資料収集や調査活動に取り組んでいきたいものです。